

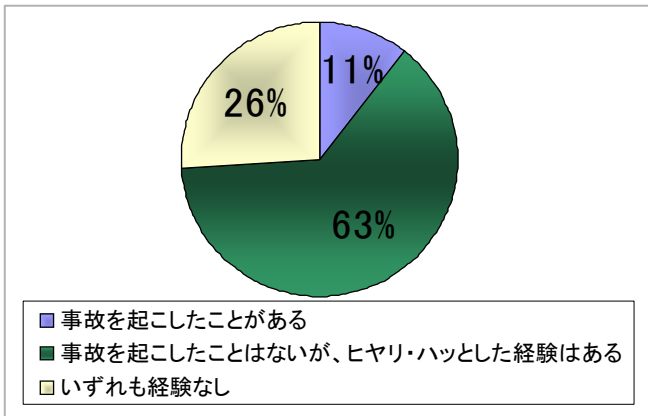
### III. 自転車通勤者の安全意識について

- 自転車通勤中の“ヒヤリ・ハット”体験をもつ人は63%！
- 夜間走行時、特に何もしない(ライトをつけない)人は17%
- 自転車の整備は、“タイヤの空気入れ”は73%の人が実践してるものの20代では、“何もしない”人が28%も！

➤ ハツとした経験は多数の人が持っているものの、特に若い世代では安全のための意識(ルール遵守&自転車のメンテナンス)が希薄な傾向

#### 12. 自転車通勤時に事故を起こしたことはありますか？ SA (n=600)

- 自転車通勤中の“ヒヤリ・ハット”経験をもつ人は63%！

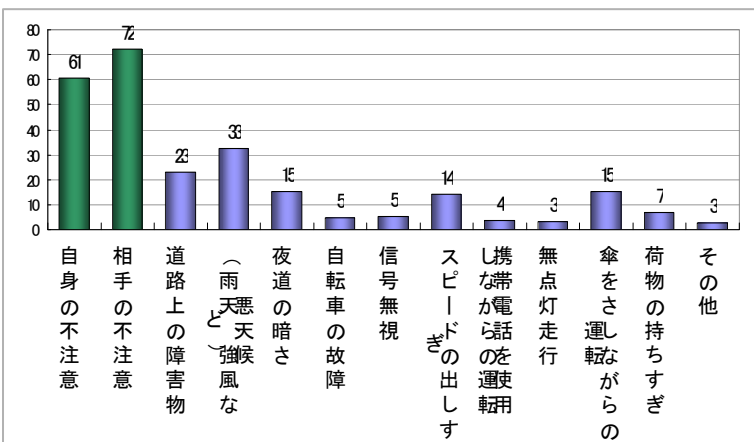


・自転車通勤時に何らかの事故の経験がある人は、今回調査を行った人のうち11%。

・事故経験はないが「ヒヤリ・ハツと」した経験がある人は、63%にもものぼっています。

#### 13. 「事故を起こしたことがある」「事故を起こしたことはないが、ヒヤリ・ハツとした経験はある」と答えた方は、その原因をお選びください。 MA (n=444)

- 事故や“ヒヤリ・ハット体験”の原因の多くは、「不注意」と「悪天候」



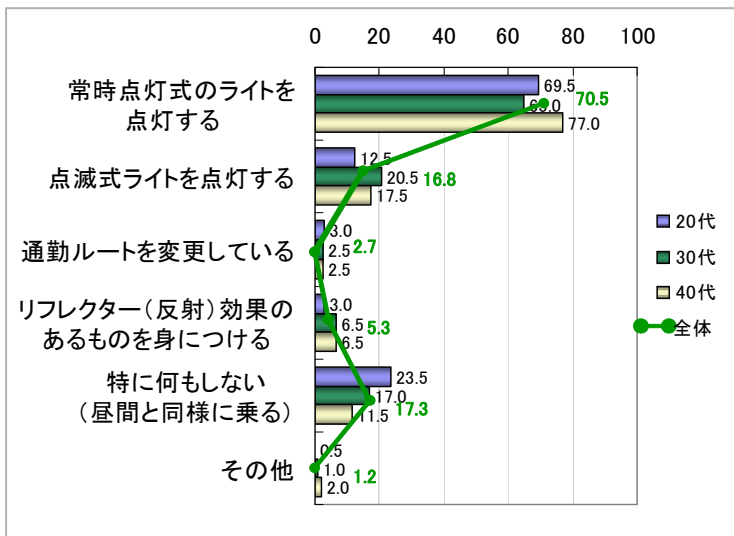
・事故や「ヒヤリ・ハット体験」の原因としては、相手・自身の不注意が多くあげられています。

・その他、天候や道路上の障害、夜道などの環境によるもの、スピードの出しすぎや、傘差し運転などのマナー違反によるものも、事故の原因となるようです。

#### 14. 夜間に走行する際に、どのような対応をしていますか？

MA (n=600)

- 20代の23%が、夜間にライトをつけずに走っている！



・夜間走行時、「特に何もしない」人は17%にものぼり、特に20代では、23%もの人がライトをつけずに走行していることがわかりました。

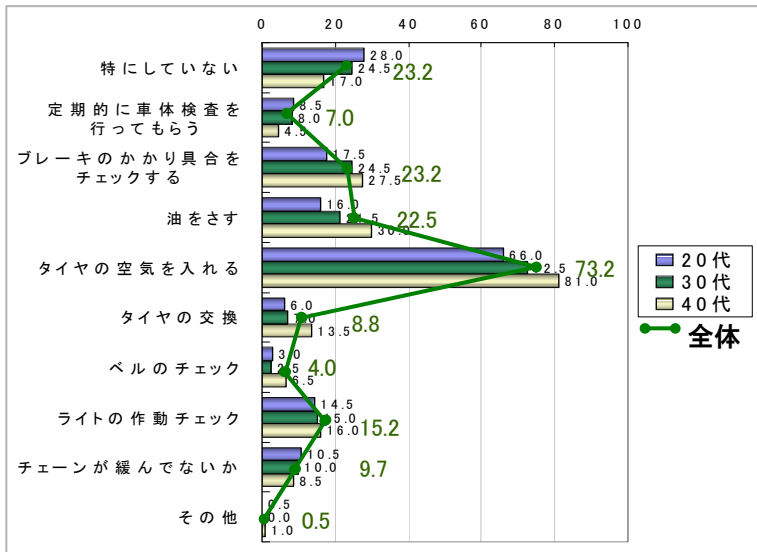
・何らかの形でライトを点灯している人が87%と大多数とはなっているものの、本来、全員がつけなければならない「常時点灯式ライト」をつけていると回答した人は71%にとどまりました。

**\* 最近よく見かける「点滅式ライト」のみをつけて走行することは、交通ルール上望ましくなく、本来は、常時点灯用ライトと併用する必要があります。**

#### 15. 安全のために、自転車の整備を実践していますか？

MA (n=600)

- 20代の28%が、“自転車の整備をしていない”と回答



・安全のための自転車の整備については、「タイヤの空気を入れる」ことが最も多く、73%の人が実践しています。一方、「タイヤの交換」や「定期的な車体検査を行ってもらう」ことは、1割以下の人しか行っていないことがわかりました。

・一般的に、年代が若くなるにつれ、自転車の整備を怠る傾向にあり、特に20代は安全意識が低いことが伺えます。

## ～調査概要～

### 【調査対象と回収サンプル数】

- ・自宅から職場まで週1回以上、自転車通勤をおこなっている20代～40代の男女600人
- ※対象はフルタイム勤務者のみ(パートタイム勤務者は調査対象から除外)

### 【調査地域】 首都圏・近畿圏

※サンプル数は、各エリア(首都圏/近畿圏)・各年代(20代/30代/40代)・性別(男/女)で均等に設定

### 【調査方法】 インターネット調査(ネット調査会社の登録モニター活用)

### 【調査期間】 2008年11月27日(木)～11月29日(土)

### 【主な調査項目】

- ・自転車通勤に関する実態
- ・自転車通勤の目的・メリット
- ・自転車通勤に関する安全意識 他

## ◆ 自転車協会について

社団法人自転車協会は、自転車の製造・輸入に関わる企業、自転車に関わる団体・個人により構成され、自転車の安全性と耐久性の向上を図り、利用者に”安全で長持ちする自転車”を提供すること、そして循環型社会に対応できる製品を提供することを目指した活動や事業を行っています。

主な活動としては、自転車の安全性向上と環境負荷物質使用削減のための規格(BAAマーク制度)の作成と普及の推進、資源の有効利用に関する調査研究などを実施しており、これらの活動を通じて、長期的な視点では、自転車の利用促進、環境保護の推進、国民の健康促進への寄与を目指します。



**BAAマーク**

### ■■■報道関係者様へのお願い■■■

本リリース内容の転載にあたりましては、「自転車協会調べ」という表記をお使い頂けますよう、お願い申し上げます。